

# 湘友会報 2006

第48号・2006年発行  
**湘南高等学校湘友会事務所**  
〒251-0053 藤沢市本町 3-1-3 湘南ビル 301  
電話・Fax 0466-50-0386  
<原則として月・水・金の午後に事務所幹事室>  
E-mail shoyukai@cityfujisawa.ne.jp  
<http://www.shoyukai.org>

## 2006年は湘南高校創立85周年です

### 2006年度湘友会総会のご案内

多数の会員の出席を期待します。

日時 平成18年6月24日(土)

受付 午前10時00分

開会 午前10時30分

場所 湘南高校内 湘南会館

総会終了後講演会(右記事)

懇親会: 午後1時 清明会館食堂(校内)

懇親会会費 3,000円(当日会場受付で受領)

### 講演会

講師: 東京工業大学学長 相澤 益男氏(36回生)  
演題: 「大学が変わる、日本が変わる」



相澤益男氏が湘南に学ばれたのは、技術立国を標榜した日本が、高度成長に向けまさに離陸しようとする時代でした。その後学問の道に進まれた氏は「生命工学」という新しい研究分野を自ら切り開き、昨秋、その業績に対し紫綬褒章が贈られました。

ただ今は、多くの要職につかれるなか、わが国の将来にとって大切な課題のひとつ「大学教育のあり方」について重要な役割を担っておられます。「大学が変わる、日本が変わる」と題するこのたびのご講演は、高校教育にとっても多くの示唆を含むものと期待しております。

<相澤益男(あいざわ ますお)氏 略歴>

- 1942年 横浜に生まれる
- 1961年 湘南高等学校卒業
- 1966年 横浜国立大学工学部卒業
- 1971年 東京工業大学大学院博士課程修了(工学博士)  
東京工業大学助手
- 1974-75年 米国リーハイ大学博士研究員
- 1980年 筑波大学助教授就任
- 1986年 東京工業大学教授就任
- 1994-00年 東京工業大学生命理工学部部長在任(97年を除く)
- 2000年 東京工業大学副学長就任
- 2001年 東京工業大学学長就任
- 2004年 国立大学法人東京工業大学学長就任

現在、国立大学協会会長、大学基準協会副会長、文部科学省中央教育審議会委員(大学分科会長)、日本ユネスコ国内委員会委員等数多くの要職を兼務。

これまで日本学術会議(第19期)会員、文部科学省大学設置・学校法人審議会会長、総合科学技術会議専門委員、日本化学会副会長、電気化学会会長等を歴任。

専門分野は生物工学、バイオエレクトロニクス、バイオセンサ等。日本化学会賞、電気化学会賞・武井賞、国際化学センサ賞等様々な受賞。2005年紫綬褒章を受章。

### 総会運営の輪番参加と「10年会費」納入のお願い ~卒業回数末尾が「6」の

36・46・56・66回生の皆さんへ~

湘友会では1997年から「湘友会細則」により、会員の活動活性化のため、卒業回数の末尾が西暦の末尾の数字と一致する会員が、輪番で総会運営に当たるとともに、「10年会費 5,000円」を納入していただくシステム(1996年までは毎年年会費を納入することになっていました)を実施しています。湘友会の年度会計は46,000名を越える会員に向けての会報発行や郵送費だけで年間数百万円もの経費がかかり、近年単年度では赤字になっています。湘友会の健全財政を維持するために、10年に一度の5,000円の会費納入は、是非ともご協力をお願い致します。

そして、今年の総会運営に当たります36・46・56・66回生の皆さんは、特に総会にご出席下さい。

また定時制・通信制の6・16・26・36回生の皆さんにも同様に、「10年会費5,000円」の納入と、総会へのご出席をお願い致します。

1952年卒業以降で今までの輪番年に「10年会費」未納の方は、郵便局の払込取扱票(湘友会事務所へご請求下さい)により、下記宛に必ず払い込み下さい。

口座番号: 00250-4-14177(右詰めに記入)

加入者名: 湘友会

金額: 5,000円

通信欄に「10年会費」「卒業回数」を明記して下さい。

湘友会会員の皆様へ



会長 天野 武和

湘友会会員の皆様には、ご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

今年も、湘友会報を一層充実した内容をもって皆様にお届けすることができますことは、誠によろこばしく、編集並びに寄稿等にご尽力く

ださった多くの方々に、厚く御礼申し上げます。

母校は、今年で創立 85 周年を迎えました。これ迄の母校の歴史を誇りに思い、将来にわたって公立高校のモデル校的な役割を果たしていってほしいと願うこと頻りです。

湘友会は、記念事業のひとつとして会員名簿を発行いたします。名簿は、同窓会活動を進めていく上で不可欠であり、同窓会そのものとも言えるほど重要なものです。種々の制約の中で、その目的に沿った形で発行できますことは、編纂に当たられた委員の方々のご努力に負うところが大きく、これを機会に会員相互の親睦のために広く活用されることを念じております。

さらに、学校と湘友会が長くその構想を温めてきた湘高新聞の復刻版の発行が、85 周年を機に実現しました。終戦以降の記録ではありますが、それぞれの時代に母校の生徒達がどんな問題意識をもち、何を発信したかったかが一目瞭然の貴重な資料となりました。会員の皆様に頒布中であるほか、在校生にダイジェスト版を寄贈いたしました。

さて、湘友会は、会則上の特別委員会として新たにサポート委員会を発足させました。その目的は、現役生徒に卒業生が直接語りかける機会を作るなど、母校を外から応援する道を探ることです。この中で、今具体化しつつあることのひとつに、学校が着手しているいわゆるキャリア教育の時間への湘友会からの講師派遣というものが、在校生に直接語りかける貴重な機会でもありますので、その折には是非ご協力をお願いいたします。第二は、県立高校 22 校の同窓会による「青春 かながわ校歌祭」の開催です。歌われる機会が少なくなっている校歌や応援歌などを、卒業生が、生徒も交えて放歌高吟することによって、そこにこめられた伝統の良い面を見直し、伝承していこうという趣旨です。本号の別稿にもありますように、第一回が 10 月 21 日(土)に横浜で開催されますが、湘友会が実行委員長を引き受けていますので、当日は多数の会員のご参加をお待ちいたしております。

終わりに、全国的にみますと、公立高校の中にも一時的沈滞を脱して勢いを取り戻してきている学校も見受けられます。わが母校にもそれを、中でも学力の向上に成果が示されることを期待して、本稿の結びといたします。

2 年目の春

校長 入江 義雄



本校に着任し、1年が経過しました。3 課程の併置校も、いわゆる「伝統校」も初めての経験なので、この 1 年間は戸惑いの毎日でした。在校生や職員にはもちろんのこと、湘友会の皆様にも多大なご迷惑をおかけしたと思います。さまざまな場面で「伝統の重み」というものを実感しましたし、生徒の活気ある日常活動の姿の中にも「伝統のつくる雰囲気」を見出しました。

すでにご案内のとおり、本校定時制は平成 21 年度に単位制に移行し、通信制は横浜平沼高校通信制とともに平成 20 年度に新設される通信制独立校に集約されます。定時制・通信制ともに、現在そのための準備を進めており、昨年 9 月には「新校設置基本計画」を策定し、県議会に報告いたしました。この基本計画策定の過程では、湘友会の会長さんをはじめ各方面から建設的なご意見をいただき、参考にさせていただきました。ありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。定時制・通信制ともに新校開校までにはまだまだ解決しなければならない課題が山積しておりますが、各方面からのご指導、ご助言をいただきながら進めてまいりたいと思っております。

また、全日制では平成 19 年度の入学者選抜後期募集から本校独自の学力検査を実施することといたしました。これを契機に意欲ある生徒が本校を受検し、これまで以上に学力の向上を図り、授業はもちろんのこと学校行事や部活動においてもますます盛んな、活気ある学校をめざしていきたいと思っております。

ただ単に伝統の重みに頼っているだけではなく、伝統の中にも新たな湘南高校をつくりだしていかなければなりません。先生方にもそれぞれの持てる力を十二分に発揮していただき、生徒にはもちろんのこと保護者や湘友会の皆様、中学校関係者や県民の方々の期待に応えられるような「活力と魅力ある湘南高校」の学校づくりに取り組んでまいりたいと思っております。湘友会の皆様方のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

湘友会小冊子「秀麗の富士 湘南」第 3 版作成

湘友会では、新入会員向けに、入会案内を兼ねた小冊子「秀麗の富士 湘南」を贈っています。今春発行の第 3 版は、湘友会のあゆみや卒業生からのメッセージなど、内容もさらに充実しました。

<http://www.shoyukai.org/2006/2006-mokuji.html> にてもご覧になれます。



## トピックス

### 特別委員会 サポート委員会設立される

2005年12月23日藤沢産業センターで開催された役員会において、会長より会則第14条(委員会)(2)項による特別委員会「サポート委員会」の設置が提案され、了承されました。会長は、湘友会の存在意義は同窓会としての性格上、第一に「会員相互の親睦と交流の促進」にあるが、母校の現状を見るにつけ、より教育活動に近づいて支援する道もあるのではないかと、という観点に立ち「母校を応援する会員有志の集い」を数回開催してきました。その中から、母校との連携のもとに、キャリア教育実施への協力「青春 かながわ校歌祭」(実行委員長校)開催の協力と参加の2つが生まれてきました。、を推進するには、有志の集いを会則上の特別委員会として、さらに幅広く支援の道が必要であるとして提案しました。

〔委員会構成〕(略)

### キャリア教育実施への協力

担当：(主)山田(32)・山本(教頭)

<キャリア教育の取り組みについて>

母校支援として「各界で活躍する卒業生を活用して、現役の高校生に講演等をする機会は与えられないものだろうか」と、その方法を模索していました。本年に入り「ニート」の増加などに対する学校教育での取り組みとして「キャリア教育」が言われるようになり、平成20年度からすべての学校で、学校の実情に応じた何らかの取り組みが求められました。

キャリア教育の基本方向には、一人ひとりの成長・発達への支援、働くことへの関心、意欲の向上、職業人としての資質・能力を高める指導、自立意識の涵養と豊かな人間性の育成等が考えられます。そこで学校と同窓会が協議してこれに対応することになり、生徒に対して何らかのメッセージが発信できるようなテーマを設定しました。(これに限定するものではない)

- 1年 自分の夢を実現する。働くことの喜び。学びの大切さ。
- 2年 理系と文系 - 進路の選択に対して  
いろいろな職業 - あなたは何になりたいか
- 3年 日本社会・世界はこれからどのように進むのか、  
社会の厳しさ、社会のおもしろさ。大学時代に  
学ぶべきこと。

これらの内容を年1回ロングホームルームの時間に多目的ホールで行う。現在、講師の選定を行っています。将来は専門項目ごとに整理して人材バンクをつくり、ロングホームルーム・総合学習の時間に対応できるようにしたいと思います。

<日程>

- 1年： 10~11月 2年： 10~11月
- 3年： 5月22日(月)、渋谷千恵磨氏(「九つ井」経営者・36回)より、起業家としての苦心談について講演いただきました。

### 「青春 かながわ校歌祭」への協力・参加

担当：(主)佐藤(31)・筒井(31)・山田(32)  
《趣旨》教育は「人を育てる」という特別な重みがある。仲間と「共に歌う」ことの教育効果は大であり、「共に歌う」の手っ取り早い材料が「校歌」である。「校歌」には時代時代の学校の教育理念や指導者の情熱、生徒の希望や決意が謳われている。卒業生が一堂に会して「校歌」を楽しそうに高吟している姿が生徒に伝わり、波及的に何らかの動機付けに結びつき、現場の教員の手助けになれば喜ばしい。

このような天野会長の呼びかけに各方面から賛同を得て、「青春 かながわ校歌祭」が開催されることになりました。東京では既に13回開催されています。

- 1. 期 日 平成18年10月21日(土)13:00~
- 2. 会 場 県立青少年センターホール
- 3. 共 催 神奈川県立高校校歌祭実行委員会  
神奈川県教育委員会
- ・参加校 明治創立13校・大正創立8校・  
昭和創立1校 計22校
- ・役 員 実行委員長 天野武和(湘南)
- ・演技内容 持ち時間10分(時間内に入退場)  
校歌・その他(応援歌等)歌唱  
伴奏(ブラスバンド・ピアノ・  
テープ等)
- ・今後の対応 開催への協力と参加方法  
(卒業生・現役を含む)検討中

参加希望者を募りますので、参加希望者は、葉書またはメールで、住所・氏名・電話番号・卒業回数・E-mailを明記の上、8月31日までに下記宛お申込み下さい。電話での申込みはご遠慮下さい。

<参加申込先>

湘南高等学校湘友会事務所

〒251 0053 藤沢市本町3-1-3 湘南ビル301

E-mail : [shoyukai@cityfujisawa.ne.jp](mailto:shoyukai@cityfujisawa.ne.jp)

- \* 「青春 かながわ校歌祭」に参加希望者は、  
6月24日(土)湘友会総会当日に練習の機会を持ちます  
ので、総会にご出席下さい。

# 湘南高校 Now

## 高校再編について

既に多くの高校が「県立高校改革推進計画」に基づき、再編統合や単独改編によって、さまざまな形で新たなスタートを切っておりますが、湘南高校も後期計画の中で、定時制と通信制が新しい学校として生まれ変わることに なりました。

通信制は、横浜平沼高校通信制とともに、現在の和泉高校（岡津高校と再編統合）の施設を活用した通信制独立校として平成 20 年度に開校する学校に集約されます。また、定時制は単独改編され、平成 21 年度に単位制の定時制として再出発することになりました。

全日制は、従前どおりの教育活動を展開していきますが、定時制・通信制の改編にともない、施設のよりよい活用の仕方などについて、課程を超えて検討しているところ です。いずれにしても、県を代表する学校として、ますます大きな期待が寄せられています。

## 入学者選抜について

入学者選抜制度は平成 16 年度から変更され、さらに昨年度に学区が撤廃されて、入学してくる生徒も全県的な広がりを持つようになりました。東は川崎市、西は足柄上郡、南は横須賀市、北は相模原市などからも通学してくる生徒がおります。こうした状況を受け、この春の入学者選抜に向けては、本校で実施している学校説明会以外に、各地で行われた合同説明会にも積極的に参加し、湘南高校の魅力と特色を大いに PR してまいりました。その結果、昨年度は旧学区内入学者と旧学区外入学者との割合がほぼ半々であったものが、今年度は旧学区内入学者が約 43%、旧学区外入学者が約 57%となりました。

平成 19 年度入学者選抜からは学力検査に独自問題を導入し、さらに優れた人材が集まってくることを期待しておりますが、今後はホームページを充実するなどして、いっそう情報の発信に努めてまいりたいと考えております。

## 学校行事・部活動など

様々な教育改革の大きな流れの中にあっても、本校の伝統ある活発な学校行事は健在です。浦高戦こそ 3 年前に終止符を打ったものの、4 月の陸上記録会、全・定・通 3 課程合同で実施する 6 月の文化祭、7 月の合唱コンクール、そして本校最大の行事である 9 月の体育祭、10 月の修学旅行、11 月には駅伝大会、冬休み中のスキー教室、3 月の予餞会や芸術鑑賞会と、まさに目白押しで、息つく暇もなく行事が行われております。生徒は実に精力的に取り組み、高校 3 年間でしか味わうことのできないものを貪欲に追い求めています。

また、部活動も活発で、昨年度はフェンシング部が山形県で行われた全国大会に出場したほか、陸上部では投擲部門（やり投げ）で関東大会に出場するなどの活躍が

見られました。

本校には成文化した生徒心得のようなものはなく、「自らにして成る」ことを誇りとし、特色としておりますが、定時制用の夜間照明があるため、日没後も遅くまで部活動に取り組んで、ややもすると下校時刻が遅くなる傾向がありましたので、昨年度から目安として 19:30 には下校するよう指導しております。

なお、昨年度の主な行事の様子は次のとおりです。

**陸上記録会**：好天に恵まれ平塚陸上競技場で存分に力を発揮しました。昨年度は砲丸投げで久しぶりに湘南記録が塗り替えられました。優勝者はまだ 1 年生で、自分専用の砲丸を持っているとか。今後の活躍が期待されます。

**文化祭**：二日間とも晴天で、多くの来校者がありました。一昨年は「湘南饅頭」が話題になりましたが、昨年はこれに加えて「湘南チーズケーキ」も登場しました。有志による劇団「非常口」は綿々と継承されており、既に新たな伝統となっています。今年は 6 月 17 日（土）18 日（日）に行います。



**合唱コンクール**：昨年度は鎌倉芸術館を会場に行われ、例年同様、質の高い合唱を聴くことができました。優勝はやはり 3 年生でした。

**体育祭**：まさに絶好の体育祭日和の中、さまざまに工夫された競技、練り上げられた仮装演技が行われました。優勝した歓喜の涙。惜しくも逃した悔し涙。青春の想い出はいつまでも心に残ることと思います。昨年度着任した校長と私は「雨男」と言われずに済んで、ほっと胸をなでおろしております。今年度は 9 月 18 日（月）に開催予定です。

**修学旅行**：昨年度は、長崎・福岡方面で実施しました。今年は 10 月に沖縄にまいります。

**対組駅伝**：寒風の中、辻堂海浜公園をスタート・ゴールとして行いました。

**スキー教室**：例年どおり菅平高原で実施し、1 年生約 100 名が参加、全員元気に帰着しました。

**芸術鑑賞会**：1 年生は歌舞伎鑑賞、2 年生は劇団四季の公演を鑑賞しました。

## 進路実績 今春の主な大学の合格者数 ( ): 現役

東京大	9 (3)	上智大	18 (12)
東工大	8 (7)	青学大	47 (34)
一橋大	3 (0)	立教大	36 (23)
お茶の水大	3 (2)	中央大	40 (19)
早稲田大	113 (53)	明治大	63 (33)
慶應大	58 (34)	法政大	17 (10)

年ごとの変動はあるものの、現役進学率は、この 5 年間ほぼ一定の水準を保っています。

(前全日制教頭 宮代先生)

## 定時制部会より

定時制部会長 田添 正

### 1. 湘南高校 Now 定時制編

#### (1) 昼間実施授業を履修して3年間で卒業

勤労青少年に夜間4年間の教育を行う定時制は近年変化し、働きながら学ぶ生徒は少数になった。2003年度以降、15時30分からの選択授業を実施し、今春その昼間授業履修1期生の3年生29名が卒業した。

#### (2) 母校定時制の再編による単位制高校新設が決定

神奈川県教育委員会は、母校敷地内に単位制高校を新設することを決定し、昨年計画案を発表した。単位制高校は、学年によらず必要単位取得で卒業する仕組みであり、定時制では授業を複数時間帯に実施する。

新校設置により、現在の学年制による夜間定時制は2008年度末で61年間の歴史に幕を閉じる。しかし、伝統は新校に継承され、夜間にも授業が行われる。

#### (3) 学校行事と活躍するクラブ活動

今年度も文化祭と体育祭(10月7日)が行われる。修学旅行は、4年次から3年次に移行されつつある。

クラブ活動の成果は、定時制・通信制生徒の大会に加え、一般の高校大会でも発揮されている。演劇部は2004年度に、関東高校演劇サマーフェスティバルに県代表として出場し、昨年度は湘南地区演劇発表会で優秀校に選ばれた。芸術部、バドミントン部やサッカー部等も活躍している。

### 2. 定時制課程会員の湘友会での活動

湘友会が住所を把握している定時制課程出身会員は約2千人であり、毎年約80人が新入会員となっている。藤沢、鎌倉、湘北各支部には定時制出身の役員がいる。

2005年度は、約90人の定時制会員が湘友会10年会費を納入し、5,15回生が輪番会員として総会の受付を担当した。今年度は、6,16,26,36回生が輪番である。

### 3. 定時制課程卒業生による同窓会組織の紹介

「湘友会定時制部会」は、1981年に定時制卒業生有志が任意で作った同窓会であり、2005年6月19日、特別会員(現・元教員)を含め約80人の会員が出席し、母校にて25回目の総会が開催された。最初に、入江校長、田中総括教頭と吉川定時制教頭にお話頂いた。

議事後には、湘友会福元参与による「本会の歩みと湘友会との関係」と題した講演が行われ、本会の設立が定時制への寄付金管理という特殊事情に端を発したものであり、湘友会の活動は出身課程別でなく、地域の支部を基本として行われていることが説明された。

今年は6月24日9時から母校で総会を予定している。

定時制の活躍

## 通信制同窓会(むつみ会)より

むつみ会会長 若命徳達

### 意義ある「むつみ会」を目指して

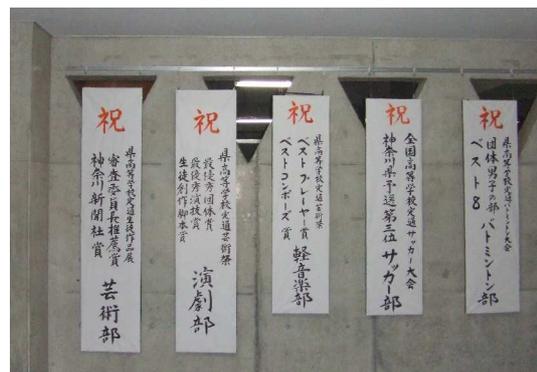
「むつみ会」初めてお聞きになる方も多いと思いますので、ご紹介させていただきます。

「むつみ会」は昭和38年、通信卒業生の会として誕生致しました。以後湘友会はじめ関係各位のご理解、ご協力をいただき、活動は年1回の会報「むつみ会報」の発行と、「料理教室」の開催で楽しんでおります。最近、湘友会各支部役員の皆さまのご配慮によりまして、むつみ会員にも支部総会のご案内をいただき、参加して有意義な時間を過ごさせていただき、見聞を広めることができた多くの嬉しい声を耳に致します。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

会長をお引き受けしてから10年が経ちましたが、数多くの貴重な経験をさせていただいております。「むつみ会」も皆様のお陰で、会としての形もできつつあり、誠にありがたく感謝申し上げます。

さらに、理解とご協力で楽しく有意義なものにと考えていました矢先、平成20年の4月には湘南通信と平沼通信が統合されて、通信単独の新しい学校ができることとです。在学生には新しい学校で学びやすい環境が用意されることと思いますが、私達「むつみ会」にとりましては、以後湘南通信卒業生が誕生しないことになり、寂しい一言です。これからは、通信を卒業して「湘友会」に入会していない多くの先輩・後輩の皆さんが入会されるよう、会員の皆さんのご協力をお願いします。

今後の予定としまして、むつみ会員が一堂に会した同窓会をと考えております。詳細につきましては後日会報・その他のご案内致しますので、皆さんお誘い合わせの上ご出席いただき、楽しいひとときを過ごされてはいかがでしょうか。一人では寂しいからと思いつつも参加しましたが、楽しく過ごせましたとの話も聞いております。幹事一同は仲間としてお待ちしておりますので、気楽にお出掛け下さい。



平成 16 年度決算・平成 17 年度予算報告(略)

創立 85 周年記念「湘友会名簿」発行 (6 月末)

会員の皆様のご協力で、5 年ぶりに新名簿が発行されます。同期会の開催に、クラブOB・OG会、支部の運営等にご活用下さい。まだ多少の残部がありますので、購入ご希望の方は、湘友会事務所までお問い合わせ下さい。(1冊5,000円)



なお、湘友会会員以外の方には販売しておりません。商業的利用はお断りいたします。(組織委員会)

「湘高新聞復刻版」未購入の方へ再度お願い

湘友会会長 天野 武和  
湘南高校湘高新聞復刻委員会

昨年度の「湘友会報」でもご案内致しましたとおり今年度の湘南高校創立 85 周年記念行事の一つとして、「湘高新聞復刻版」の刊行が行われております。

復刻版はB4版・642ページで、昭和22年の湘中新聞から最新号までに、「湘高新聞」発行の時代的背景や湘南高校の主な出来事とか写真等も入って好評です。

復刻版は湘南高校が発行し、湘友会が財政支援を行うとともに広く会員への販売を担当しておりますが、ただ今までのところ、会員からの購入希望は予想を下回っているのが実情です。もう少し購入希望者が多いと考えて、廉価に設定しましたので、一人でも多くの方に購入していただきたいと思っております。

そこで、今年度も未購入の方には、購入を再度お願いすることに致しました。定価は、送料込み3,000円です。購入ご希望の方は、郵便局の払込取扱票(湘友会事務所にご請求下さればお送りします)を使って、下記への払い込みをお願いします。(払い込みの締切りは、2006年9月末日とします)



口座番号：00200 - 4 - 75909  
(右詰めに記入)

加入者名：湘南高校湘友会

金額：3,000円

通信欄に「湘高新聞復刻版」  
「卒業回数」を明記して下さい。

ウェブ版湘友会報についてのご説明

ウェブ版は、会員のみならず会員以外の不特定多数の方々にも参照されるため、次の改変を行っておりますのでご了承ください。

会員の氏名は、名前は削除し、姓のみ記載。また、連絡先電話番号は削除。ただし、会長、副会長、校長先生、著名な方、故人の姓名は原文のまま。

決算・予算報告、教職員の異動、委員会等の組織の構成員のリストは割愛。

湘友会ウェブマスター

# 支部だより

## 藤沢支部 2006年度藤沢支部夏の集い

2005年9月3日(土) 18時よりグランドホテル湘南にて、恒例の「夏の集い」が開催され、元東大医学部講師西原君(34回)が、「究極の免疫力 健康は美呼吸・噛み合せ・睡眠で決まる」というテーマで講演した。当日は春原先生のほかに、武藤先生、斉藤先生も、いつものように元気な姿で登場され、生バンド演奏を聴きながらの立食パーティーでは、懐かしい思い出話に華が咲いた。

本年は8月27日(日)夕刻6時より、場所も同じホテルで、トルコ大使等を歴任した山口君(30回)による「公正・不偏の視点から世界をとらえる」と題した講演と、恒例のパーティーが用意されている。この機会に、藤沢市民でない湘友会員も、ぜひ参加していただきたい。(太田 34回)

## 鎌倉支部

鎌倉支部は、逗子・葉山を含めて活動していますが、しばらくぶりに総会を開くことになりました。鎌倉・逗子・葉山在住の同窓生(含在勤・以前在住など)お誘い合わせの上、ご出席下さい。今年は元劇団「四季」の沢木(鈴木・39回)君が歌う珠玉のミュージカルナンバー・シャンソンの名曲の数々をディナーと共に楽しみ下さい。ご家族のご参加も大歓迎です。

日時：9月16日(土) 午後5時~7時30分  
場所：鎌倉芸術館(大船駅から10分)0467-48-5500  
会費：8,000円  
参加申込：〒247-0074 鎌倉市城廻 502-1-502

志賀野勝47 Tel&Fax0467-44-9018

はがきか Fax で9月3日までに氏名・住所・電話・卒業年(友人・家族連名も可)をお知らせ下さい。なお当日になっての出席取り消しはご容赦下さい。

(内海 31回)

## 茅ヶ崎・寒川支部

支部総会は、昨年と同様に2005年11月23日に、約60名の会員の参加と入江校長、天野会長、堀田副会長をお招きして、阿部浅本店で開催された。

茅ヶ崎支部は、ここ数年寒川の湘友会会員と一緒に支部の集まりを行ってきたが、本部総会での承認を得て、茅ヶ崎・寒川支部として正式に発足した。

総会終了後の記念講演では、茅ヶ崎市史編集委員で、お茶の水大学の加藤厚子先生に「銀幕のなかの茅ヶ崎」という講演をしていただいた。近年、小津安二郎と茅ヶ崎館が話題になっているが、それ以前より茅ヶ崎は、別荘地・保養地のイメージでロケーションに取り上げられていたとのこと。映画時代に育ったオールドボーイは、若かりし頃見た映画や撮影現場の状況と重ねながら話を聞き、楽しいひと時を過ごした。

(篠田 33回)

## 平塚支部

平塚支部は、2005年11月26日(土)17時からスポーツプラザ神奈中平塚で、湘友会の天野会長にご出席いただき、支部会員40名の参加のもと、支部総会・懇親会を開催しました。(田中 36回)

## 湘北支部

支部総会が2005年10月15日(土)14時より、小田急ホテルセンチュリー相模大野において、天野湘友会会長、小林先生(校内幹事・49回)のご出席を頂き開催されました。本年は支部長改選年度になるので、3期6年の廣井(20回4卒)から同期の中垣君に代わるとともに、役員構成の変更も議決されました。

そのあと衆議院議員 亀井善之先生(30回)による興味ある政界特別講演が、他地区の同期30回生や同窓ご家族多数の参加のもと盛大におこなわれました。

懇親会には、門倉君(30回)おほかえのハワイアンバンドがはいり、生カラオケのあと校歌斉唱で日程を終わりました。本部及び同窓のご協力に御礼申し上げます。(廣井 20回)

## 2006年春の湘南高校職員異動

(略)

# 学年だより



## 12回生

平成 17 年度第 21 回同期会は、去る 5 月 14 日藤沢市在、日本料理「ひよく」で開催した。判明している現存者は、もう 28 名となってしまった。出席者は最終的に 9 名。従って欠席者は 19 名となる。



当日の司会者は浅野君が行った。高齢に伴い耳が遠くなったのか、皆の声が大きくなり、

今までにない賑やかさであったが、特に会の継続については、またまた喧々諤々の論争となり、結果としてとにかく継続となった。来年は満年齢で米寿の者も出る。支障なくまた相見える日を期待したい。(溝延 記)

## 16回生



戦後 61 年、2006 年 4 月 4 日、戦没者 17 名を含めた物故者の慰霊祭を鎌倉・浄智寺で行い、そのあと 82 歳を超えた同期生 36 名参集、時を忘れて昔話に華を咲かせた。(若尾 記)

## 18回生

久しぶりに秋らしい好天に恵まれた 10 月 21 日、18 回同窓会を藤沢産業センター(7 階)で開催した。前回までは藤沢・平塚・茅ヶ崎・鎌倉・横浜の各地区が毎年持ち回りで幹事を務めてきたが、今後は藤沢地区が幹事となり、同窓会の世話をすることに昨年の同窓会で決まり、今年はそのスタートの年となった。出席者は総勢 48 名、春原先生もご出席下さった。長谷川君の司会の下、宮田君の開会の辞に引き続き、春原先生から 94 歳になったが、諸君は少なくとも私の年齢までは元気で活躍してほしいとの励ましのお言葉をいただいた。そして世話人代表の安藤君から会の今後の運営についての話、西島君の幹事代表挨拶、物故者への黙祷の後、遠路遥々参加してくれた彦坂(神戸)、本間(新潟)、中元(奈良)の三君より出席者の健康を祈っての、合同発声での乾杯がなされ、懇談に移った。大部分の者は今年傘寿を迎えたが、益々元気で、積もる話に華が咲き、会は大いに盛り上がった。最後に赤羽根君の音頭で校歌と「湘中懐古の賦」を斉唱して、来年の再会を期して散会した。(中嶋 記)

## 20回4卒の会

平成 17 年度の総会が 10 月 6 日(木) グランドホテル湘南で開催され、朝方雨、日中曇天の中、59 名の同期生が元気に集まり、定刻 13 時より始まった。

第 1 部は中原君の名司会により、〔1〕会長挨拶〔2〕黙祷(物故者 7 名)〔3〕校歌斉唱(指揮・細君)〔4〕会計報告(秋元君)〔5〕監査報告(君塚君)と極めて順調に推移して終了した。記念写真は、その場で手早く椅子を並べ替えてから、下里君にお願いして撮影終了となった。



第 2 部は隣の宴会場に移動して、

13 時 30 分より開宴した。司会は加藤君に交替。前半は 1~2 年時のクラス毎にテーブルを分けて着席し、小クラス会の形式をとることになった。1 組高梨組、2 組千田・井上組、3 組八巻組、4 組宮下組、5 組梅津組、6 組直井組に分かれた。担任のお名前を失念して、まごついた人もあったが、とにかく全員着席。堀江の乾杯の音頭を皮切りに一気に盛り上がる。4 組の席には 30 年ぶりに出席した平井君の姿があった。後半はいつもの形にもどり、席の往来も激しく、にぎやかな宴席が続く。ブラバンの後輩の人 2 名と西川君(ブラバン先輩)が校歌と応援歌(全 8 曲)の入った CD を 1 枚 1,000 円で希望者に頒布して回る光景もあった。

蒲田君の閉会の挨拶の後、安川君の一本締めによって名残惜しいこの会も定刻 15 時 30 分にお開きとなり、次回の再開を楽しみにして散会した。(植木 記)

## 21・22回生

平成 17 年度当番の鎌倉地区が企画し、2005 年 10 月 6 日に同期会を鎌倉鶴ヶ岡会館で開催した。今回は諸先生のご出席はいただけなかったが、そろそろ喜寿を迎える同窓生六十数人の出席があり、にぎやかな楽しい一日でした。この 1 年間で旧友が 4 人亡くなられた。ご冥福をお祈り致しました。次回は平塚地区で幹事を担当することにした。(坂内 記)

## 25回生



2005 年 10 月 21 日(金) 12 時 30 分、グランドホテル湘南に於いて第 25 回同期会を開催しました。昭和 25 年卒業より丁度 55 年目、春原淳三先生、斎藤

忠先生をお招きして、総勢 71 名の参加でした。「校歌」に続き、我々の同期生 故 園冬晴君の作詞、恩師籙木欣作先生の作曲に成る「選手を送る歌」を歌えば益々盛り上がり、時間の経つのも忘れる程の盛会でした。次回は、

2006年10月18日(水) 同じ場所、同じ時間での再会を約束して散会しました。

当日の会員参加者次の通り：青木(二名)・秋田・飯島・池田・石井・石川・稲川・井上・岩本・大筋・小澤・小田島・小野・柿澤・片野・加藤・狩野・川島・菊池・氣田・豊・近藤・斎藤・澤登・嶋崎・荘林・新堀・清田・高橋(二名)・高山・田中(六名)・田村・徳江・中島・中野・永濱・能村・能登・萩原・長谷川・比企・藤居・藤田・堀越・牧嶋・丸茂・箕作・峯尾・宮木・宮崎・宮下・宮田・安田・山縣・山口・山崎・山田・吉田・渡邊

(ウェブマスター註：同姓の方はカッコ内に人数を記載しています)

(柿澤 記)

## 27回生

27期生(不作会)総会と懇親会を、2005年6月17日(金)横浜みなとみらいグランド・インターコンチネンタルホテルにて開催した。出席者110名、先生方6名、計116名という、多くの参加者である。昨年の総会から今日までの1年間の物故者は7名、72歳を越えれば致し方ない思いと残念な思いの黙祷をささげる。体調を崩していたが、回復して間もない幹事クラス代表、藤田君の挨拶でなごやかになる。秋山会長の来年もまたお会いしたいという挨拶から始まる要領の良い総会で、年会費納入者が全体の80パーセントを超えるのは驚異的数字という会計幹事からの報告がある。和田君から湘友会の動向の報告もあった。

懇親会のお楽しみはビンゴゲームである。担当幹事クラスの知恵を絞った景品の数と珍しさは皆を満足させた。中でも矢田の力作で、フランス・ナショナルデポザール展に出品された20号の油絵を当てた仲間に、会場から歓声があがった。港の夜景の光がきらめき、青春の思い出が応援歌と恒例の杉山君のエールとともに蘇った。湘南の教育を受験教育として否定する方もおられるが、戦後の湘南の良き時代の教育の成果として評価するべきだと思う。自由を謳歌し、スポーツや文化創造に燃えたではないか。司会の神田君や幹事長の高田君は大学でも活躍したマラソンや卓球の往年の名選手である。幹事の方たちが、年の割に頭脳の回転が良く、自分の事を捨てて皆のために尽くすのが27期生の仲間意識の強い絆と友情を感じさせてくれる。人生の名残を惜しむように懐かしい顔ぶれに声を掛け合って、時間は早く過ぎた。担当幹事クラスは後2クラスで学年を一巡だが、10年くらい

はお互いに生存を確認



湘南高校ラグビー部創設時のメンバーである好漢 藤田昌康君、病には勝てず 2006年1月29日寂

しようという閉会の挨拶で幕を閉じた。

(37組幹事 矢田 記)

## 30回生

私達は、高校卒業50周年を記念して、同期生による「卒業50周年記念作品展」を、2005年8月30日から6日間、藤沢市民ギャラリーで開催した。作品は、絵画、写真、陶芸、書軸、刺繍、組み木、木彫り、木目込み人形、木造帆船模型、サーフボード(日本最初の自作)、著書等、

又、思い出コーナーとして在学時の写真(入学時・卒業時・関西修学旅行・甲子園出場時の入場行進・体育祭・文化祭・各クラブの活躍)等多岐に亘った。この期間中の入場者数は、1300名と盛況であった。ご覧になった方々の感想として「多彩な才能を発揮しているのも、湘南高校ならではのと思う」「会場のレイアウトが素晴らしい」などを戴いた。この作品展を実施するに当たり、同期生皆が「力」「心」を寄せ合い、50年前の体育祭・文化祭と同じ気持ちで協力しあったお蔭で盛大に開催することが出来た。

また、恒例の第14回同期会は、この作品展会期中の9月2日(金)恩師をお迎えし、遠くはオーストラリアからも馳せ参じた仲間もあり、130名の同期生がグランドホテル湘南に会し、今は亡き恩師・同期生に黙祷を捧げた後、今までにない大変な盛り上がりで、時の経つのも忘れ



作品展会場入口

卒業50年を祝った。古稀を迎えた今日、この作品展を今後も続けようと有志が集まり、「悠稀会」として発足した。

早速、「悠稀会」と本年度の同期会を次の日程で開催することになった。詳細は追ってご案内します。

・「悠稀会」作品展は、2006年9月19日(火)～24日(日)(於 茅ヶ崎市民ギャラリー展示室)

・「第15回同期会」は、2006年9月22日(金)午後3時より(於 グランドホテル湘南)

尚、湘友会ホームページに、「卒業50周年記念作品展」<http://www.shoyukai.org/doukikai/30/>の作品を掲出しておりますのでご覧下さい。

(遠藤 記)

## 31回生

13回目の同期会を2005年9月10日(土)鎌倉芸術館で開催し、「一病息災を支援します」という講演を元保健所長の堀井(内田)昌子さんが行い、天野武和君の湘友会会長激励会も兼ねて行われ、6月24日の湘友会総会には皆で出席しようということになった。

今年は卒業50周年になり、天野君が委員長で行われる「青春 かながわ校歌祭」(県立青少年センターホール)に出席して、その後で記念の同期会を開くことになった。案内のはがきは出すが、ぜひ出席していただきたい。

日時：10月21日(土)18:00～20:00

場所：横浜中華街 萬珍楼 会費：10,000円

連絡先：内海

(内海 記)

## 36回生

昨秋10月16日、藤沢ザ・ホテル・オブ・ラファエロにて36回生同期会が開催された。この同期会は卒業以来途絶えることなく隔年ごとに開かれている。会は百名を

越える出席者があり、たいへん盛り上がった。

この日、幹事クラス制作による「還らぬ日、遠い昔。」という思い出映像(20分)が上映された。火災による校舎消失直後の入学。安保闘争や皇太子ご成婚といった出来事。長嶋や裕次郎などスーパースターたちの活躍。高度成長にむけ助走を始め、



やがて迎える豊かな社会への予兆。しかし、どこか牧歌の雰囲気も漂うよき時代でもあった。参会者は映像を楽しみつつ、遠く豊かな湘南の日々を懐かし

く回顧しあった。(この映像は湘友会総会でも上映される予定)

今年、36回生は湘友会の輪番幹事学年である。この同期会で各クラスに代表幹事をおくことが提案され、さらなる同期の連携を強めることになった。私たちは6年後、卒業50周年を迎える。揃って元気にこの節目となるアニバーサリーを祝いたいものである。(池田 記)

### 37回生

来年の湘友会輪番幹事学年を控え、今秋下記のように同期会を開催します。各クラス幹事から改めて連絡します。

日時：2006年9月23日(秋分の日) 午後4時

場所：藤沢産業センター8階 情報室

(大谷 記)

### 定時制6回生

秋も深まる2005年9月の末日、藤沢ザ・ホテル・オブ・ラファエロ(旧湘南クリスタルホテル)にて、昭和32年卒業第6回生の同窓会を、「秀麗の富士を高く...」CDの流れと共に開催しました。6年ぶりとあって、この日を待ち望み、机を並べた友に、ご多忙にもかかわらず恩師と野主計先生も駆けつけて下さいました。かつての想いに豊かな会話で宴は弾み、輪も広がる中で、室尾君の試練を積み重ねた華麗で巧妙な数々の奇術に、驚嘆と笑みを誘い、年々若くなられているのではないかと思われる与野先生のしなやかな身のこなしにかたずを呑み、ア



ンコールに応じて迫力ある美少年「白虎隊」の舞いに感動し、時を忘れるほど和み、互いに元気をもらい、校歌を力強く斉唱して締めました。二次会のカラオケには全

員が参加するほど名残りも尽きず肩を組み歌い、友の温もりを共有し、健康に留意し、再会の機を約束して余韻を残しながら湘南の街を後にしました。

(杉浦 記)(撮影：渡辺)

## いろいろ湘友会

### ブラジル湘友会

湘友会報38号から始まったサンパウロ湘友会は、初代幹事、熊澤氏(全41、前・伯国丸紅社長、在日)の提案で発足し、爾来、毎年校友有志が随時参集して交流を深めておりますが、会を重ねる毎に在伯校友数も増えて、日本からの駐在員も加えて、現在は12名の会員となりました。当初はサンパウロ在住者のみから発足しましたのでサンパウロ湘友会と呼称しましたが、近年、リオ・デ・ジャネイロや遠くパイア州に転勤になる校友も出てきますので「ブラジル湘友会」と名称を変更いたします。当会には、特別名誉会員として、湘中創立初代校長先生、赤木愛太郎翁のご息女の田村様も毎回の湘友会にお招きして、古き湘南健児の健闘などのお話を伺っております。次回の湘友会報には、田村様にお話を伺って赤木愛太郎校長先生の回顧録を載せていただくよう企画いたしております。



田村様しかご存知無い初代校長先生のお若き頃のお話を伺って、校友の皆様にご紹介する予定です。添付の写真は05年3月、青木氏(全25)

宅で行った湘友会の折撮影したものです。参加者の人物をご紹介しますと、中央車椅子に座った青木氏を中心に、すぐ左に立っておられる田村様、右に立っておられる青木夫人、後列、左から貞方氏(定10)、森氏(全34)、森夫人、田村様、木村夫人、木村氏(全56)、青木夫人、古口夫人、古口氏(全41)、中山夫人、大島氏(全49)、前列左側片膝付いているのが中山氏(全24)、右側は門脇氏(定17)などが出席者の顔ぶれです。貞方氏は、ブラジルヤクルト社長としてご活躍、また青木夫人は、ブルーツリーグループの総帥としてブラジル政治経済界でご奮闘されています。夫婦で校友の木村夫妻は、昨年サンパウロよりリオ・デ・ジャネイロ三菱東京UFJ銀行に転勤されました。この集会には出席されなかった坂田氏(全41)は近くパイア州のプリジストン・ファイヤーストーン新工場に転勤される予定で、会員皆さんそれぞれお元気で活躍されています。

ブラジルは日本からは地球の裏側で、遠隔の地ではありますが、近年は時間的にも近くなり、2008年には、ブラジル日本移民百周年の記念祭典も盛大に挙行され、日伯政府の親善も強化されるので、今後の日伯経済交流は益々増大されて、湘友会会員の方々のご来伯も増えるものと思っております。その折には、校友各位に当方幹事にご連絡を戴き、当地での交流を深めたいと存じますのでよろしくお願い致します。会報第42号(2000年)10頁の掲示板に、「ブラジルに赴任しますが、現地情報をお持ちの方いらっしゃいませんか」という問い合わせが記載されています。このような時には、ブラジル湘友会をご利用

下さい。秀麗の富士を仰ぎ見、雲雀あがる広き湘南の空、澎湃と満つる相模灘などは、遠くブラジルにいても忘れられない想念です。

では、また次号まで皆様お元気で。

(中山 24回 記)

### 湘籬会 (バスケットボール部シニアOB会)

2005年6月18日(土) JR 横浜駅東口崎陽軒本店にお



いて、第11回総会を開催した。「湘籬会(しょうろうかい)」は、還暦を過ぎたバスケットボール部の卒業生によって構成されている。

本年は、昭和39年卒の4名が新たに入会して、会員数が合計で110名となった。当日は、その内の38名が出席。84歳にして未だ矍鑠とした稲垣会員(中13回)の音頭で乾杯。顧問の齋藤忠先生の挨拶、引き続き各期代表による近況報告が披露され、現役当時に戻っての賑やかな懇親会であった。最後は、全員揃って恒例の校歌を斉唱して、1年後の再会を約して解散した。来年は、会場を藤沢に移して開催する予定である。

現在、湘籬会は、下記の体制で運営している。

(役職、氏名、略)

(小泉 31回 記)

### 福祉湘友会

昨年7月16日(土)、母校清明会館にて、「高齢者の健康観～日中の調査結果を比較して～」というテーマで研修・懇親会を、本年1月21日(土)に藤沢市民会館にて総会・新年会を開催。総会では、現役社会福祉委員会の皆さんに何か支援できないか話題になり、今後福祉に関心ある現役生徒に何らかの働きかけをしていく事が確認されました。

現在、会員資格が一般会員と情報会員の二種となっております。退会された方、入会をためらわれた方、改めて情報会員としての入会をお考えいただければと思います。福祉湘友会は福祉に関するものだけでなく、福祉に関心のある卒業生すべての情報交換の場です。現在の職種・職場に関係なく、働いているいないにかかわらず、また、全・定・通の課程に関係なく是非一度お声をお掛け下さい。

次回は7月1日(土)(あるいは、15日)に母校清明会館にて、研修・懇親会を開催の予定です。

(福祉湘友会幹事 奈倉 37回 記)

問い合わせ・連絡先

全37回 奈倉、全46回 小林 (TEL, FAX: 略)

### 北原白秋・山田耕筰コンビの校歌 今も歌い続ける『兄弟姉妹』高校

～大阪府立豊中高等学校「校歌特別展」に資料提供～

湘南高等学校校歌(1933年2月制定)と同じ、北原白秋(作詞)・山田耕筰(作曲)のコンビによって校歌が作られた大阪府立豊中高等学校同窓会・豊陵会から、「校歌特別展」に向け、両氏の校歌を現在も継承している高校として資料提供の依頼があり、湘友会では、校歌原本のコピー、校歌制定にまつわるエピソード、校歌CD、校舎写真等を送付し、開催に協力しました。

豊陵会から送られてきた記事を紹介します。

大阪府立豊中高校は1921(大正10)年、大阪府豊能郡豊中村(当時)で府立では13番目の中学校として設立され、以来3万有余名の卒業生を数えます。

昨年は、1955(昭和30)年に北原白秋作詞、山田耕筰作曲の旧制豊中中学校の校歌が晴れて新制豊中高校の校歌として復活して50周年を迎え、また今年には1936(昭和11)年、山田耕筰氏が来校して親しく生徒に校歌をお披露目してから70周年にあたり、また同氏生誕120周年でもあり、この節目に、同窓会報「豊陵会報」(年2回発行)の11月号で『校歌生まれて70年』という記念特集号を編集・発行しましたが、現在は豊陵資料室の企画展示『校歌展』(3～7月)を催しています。

作者自筆の楽譜等の展示校は、貴校をはじめ東洋英和女学院、法仙学園・中野高校、山梨県立身延高校、福岡県立伝習館高校、それに母校の6校ですが、展示だけではなく、会場ではCDにより各校の校歌を流しています。

単に一高校の校歌の回顧の域から、戦後の、国家主義・軍国主義教育から平和・民主主義教育へと転換した時代の流れを反映して、旧校歌への思いと校歌再制定



の間で揺れる各校の教育関係者の苦悩がしのばれ、取材は空間的にも歴史的にも広がって、得るところ多い企画展になりました。現在、来館者は決して多いとは言え

ませんが、記名帳には、「おざなりではなく、幅広い取材と踏み込んだ展示に感心」との感想がしきりです。また、豊中市広報やCATVの「ケーブルウエスト豊中・池田」からも取材があり、OBのみならず市民の間でも徐々に話題にのぼっています。

貴校歌の冒頭、「秀麗の富士を高く」の節の絶妙のメロディーを聴きながら、校歌の兄弟校のみなさん方にはたいへんお世話になったこと、特に「湘友会」の皆さんには、大阪在住の方を含め、大変ご支援いただいたことに、改めて感謝の念を強くしております。

ありがとうございました。

(「豊陵会報」編集部)

## 先生方の湘南回顧録

初めは総て・・・



小山文雄

(湘南高校 1948年～1973年在職)

昭和23年4月「湘南高等学校」は発足した。まだ中学3年生が残っていて、門札には「併設中学校」と付記された。その門をくぐり、私は「先生」となった。免許状は古いままの「修身科・歴史科」だが、アメリカ直伝の

social study 第1号の教師だった。

東京生まれ東京育ち、家を空襲で焼かれ転々の片瀬住まいなので、「湘南中学校」について知る所はなかったが、やがて知ったのは初代赤木校長が県下第一の優秀校に育てあげられたということだった。

「社会科」は未開の分野、学校で仕込まれてきたのは新卒の私だけだから、併設中学3学年7クラスをすべて私が受け持った。湘南中学校「一般社会」は小山の社会科！心弾んだ。それぞれにテーマを持っての自主研究が中心、けれどそれだけではなんとなく心もなくて、重農主義 重商主義、そしてアダムスミスに至る古典派の経済学史の講義を取り入れてみたりもした。今も27回生の諸君と会うと、よくその話が出る。

そして翌年、野球部の全国制覇で、無欲の勝利・文武両道と喧伝され、「湘南」はいよいよ輝きを増してゆく。そうした中で、我が青春は、半ば教育に、半ば自己充実のための読書に投げ入れられた。大正教養派の末裔をもって自任する私は、民主社会の定礎として、存在としての「個」と、その様態としての「自由」を軸に人間論を説き続けた。「教養」、それは、できるだけ広く、できるだけ深くの思いを持って考え、行動し、まともに生き合うことを内実とする。それをどう日常に果していくか、それを課題とする。

「難しくって分からない」という諸君には、「やがて分かるよ！」と言い言いして語り続けた。さすがに湘南！分かるかと分かるまいと、目だけは輝かせてくれた。その輝きこそが私を支えてくれていた。

雲雀あがるこの丘の春秋は行事に富んでいた。文化祭と体育祭そして仮装行列コンテストを軸に合唱コンクールあり対組競技あり、競うは友情、それらは私にとって一人一人と付きあう絶好の時、かつて漱石先生は自身の位置づけを「先生にして友達なるものだね」と語っていたが、それは時を距てて私の思いともなっていた。私は湘南25年間を一貫して社研の顧問であり、生徒指導部に属してきたが、そこでの基本もまたそこにあった。

60年代末から世は荒れた。安保改訂を前にしての大学紛争、そして高校紛争、その一方では昭和元祿の喧伝、フーテン・ヒッピー・シンナー遊び、世は混沌のその中で、私達は「守ること」に徹したが、それを俟つまでもなく生徒諸君は賢明だった。

私の人生はどこが「湘南」の気に染まっている。「湘南」

は、生徒だけでなく、先生も育ててくれたようだ。初めは総て、とつくづく思う此頃なのだ。

### 添田徳積先生ご逝去



長年に亘り、湘友会にご尽力下さいました添田徳積先生が、昨年7月29日ご逝去されました。

先生は、母校湘南高校に長期在籍されながら湘友会運営にも当たられました。その功績は大なるものであり枚挙に遑がありません。数年前

まで、湘友会報「湘南紳士録」のコラムを荒間滄海のペンネームで掲載されておりました。ウィットに富んだ内容で読むものを楽しませて下さいました。

ここに生前の湘友会へのご尽力に感謝いたすとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

湘友会報に載せるべく「湘南と私」という題で先生にご執筆お願いしておりましたところ、計らずも遺稿となつてしまいましたが、その抜粋を載せさせていただき、先生を偲ぶことにいたします。

### 「湘南と私」 - 随想 -

添田徳積

(7回生・湘南高校 1944～65年・77～88年在職)

湘友会の役員を70年も務めて88歳を期に引退した。馬齢をさらに重ねて91歳ともなると、記憶も薄れ、何よりも意欲が減退してしまった。本部の会報担当の山田氏(32回生)が拙宅まで訪れて、原稿用紙2枚くらいを投稿してくれとの依頼だった。丁度石原慎太郎氏(27回生)が、実弟裕次郎氏の思い出を執筆した『弟』がテレビで三夜に渡って放映された後であった。

#### 野球部創設の頃

石原慎太郎氏の父君、石原潔氏と野球部創設にまつわる話だが・・・

終戦翌年の9月の職員会議で、野球部の創部が決まった。バックネットに竹等をたて紐で引っ張ることから何から何まで揃えなければならない。軍属上がりの外科医中村博士に物心両面で多大のご援助をいただいていた。GHQは日本のインフレを抑制するために、新円封鎖等の措置をとって締め付けていた。後援会を組織するために、父兄や有志をお願いした。野球好きの作家の久米正雄先生や林房雄先生等も、そしてオペラ歌手の藤原義江氏が音楽会を開いてやるからその利益をと、アキ夫人が学校を訪れて下さった。6月22日の会場の様子など鮮明に記憶に残っている。

夏休みの日曜日を選んで、発起人会を開くことになった。どうして、小樽の実力者として著名な石原氏を選んだのか、そして依頼にお宅に訪れると、ご本人がどう反応されるか、それも余りはっきりしていなかった。当日、休んでおられたのだろう、浴衣に三尺帯をしめて現れた。眞黒で剛わそうな髪、鼻の下に短い髭、黒目勝ちの瞳で

じっと見据える。身の丈は息子達ほどではないが、肩幅、胸の厚み、正に偉丈夫。日本人は外国人に比べて体格は貧弱、中にはスポーツ選手だったとかの大きな風采の人物もいるが、中身の空洞はすぐわかってしまう。風采に力容の品格が加わってこそ尊敬されるものだ。「その件については、息子から伺っております。当日必ず出席致します。」低い重みのある声だ。風格の人 石原 潔氏として記憶に残っている。

鎌木 創 (18 回生) さん 編作曲

銀座の恋の物語 (作詞: 大高ひさお)

昭和 36 年『銀座の恋の物語』が大ヒットした。鎌木創さんと同じ湘南 18 回の同期生が集まって創さんを囲んで合唱した。

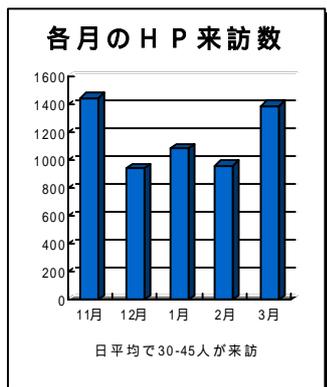
東京で一つ 銀座で一つ

若い二人が 初めて逢った

真実 (ほんと) の恋の物語り

歌謡曲など不案内の老生も、何と明るい曲だなあと感じ入った。

### 湘友会ホームページあれこれ

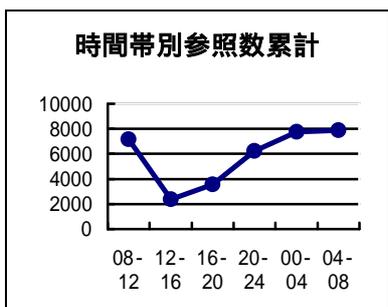


最近では一日平均延べ30-45人の来訪者(ホームページの参照数)があります。昨年の6月-9月の数字と比較して、推定で15%増加しています。

もとより会員が頻繁に参照する性格のサイトではないので、たまに来訪された

ときに新しい発見と思い出を喚起するコンテンツがあることがサイトの存在意義になりましょう。

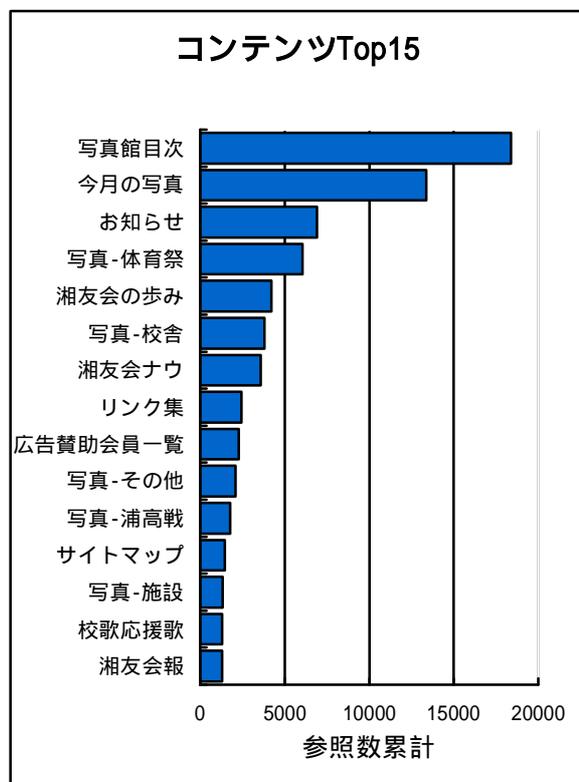
昨年来「会員の広場&湘友会の顔」をサイトの命題にして拡充しています。卒業生に配付される小冊子「秀麗の富士 湘南」をもとに「湘友会とは何ぞや」を補強、デザインの変更、「思い出の写真館」の構成変更と写真の追加、「校歌・応援歌」の掲載ほかを行ってきています。



面白いデータとして、時間帯別に参照数を累計で見たのが左です。日中が低調なのはよく理解できますが、深夜快調というのは時代なんでしょうね。

ということは、背景色がきれいなピンク色のホームページをご覧になった方も多くおられるわけです。訪問され

た時刻により、ホームページの背景色とメッセージを変化させる仕掛けをしてあります。お気づきになりましたか?コンテンツもさることながら、やはり多少の「色気と遊び」もと思ひまして。



コンテンツでは、上図に見られるとおり、「写真」と「湘南高校・湘友会の歩み」などの記録ものが多く参照されています。ホームページの中央に表示されるスライドが「今月の写真」です。また、二月に掲載した校歌・応援歌も急速に参照数を伸ばしています。

湘南高校から、最近では10年毎に記念誌が発刊されていることはご存知ですか?今後その内容を「歩み」にリンクさせながら、順次転載していきたいと思ひます。また、皆様には高校時代の思い出の写真をご提供いただき、「思い出の写真館」の拡充にぜひご協力ください。

なお、サイトからの会員へのサポートとして、

1. 支部やOB・OG会、同期会・同窓会の行事の周知に行事予定表を用意しています。
  2. 支部やOB・OG会、同期会のページをサイト内に持つことができます。
  3. 会員独自のホームページへのリンク掲載も継続しています。
- 皆様によるサイトの活用をお待ちしています。お問い合わせ・ご相談は、湘友会事務所までご連絡ください。(データは2005.12-2006.3累計)

(米満 37回 記)

人・生き生き  
東京工業大学 学長  
相澤 益男 さん (36 回生)



氏の経歴については、P. 1「講演会」の項を参照

聞き手：遠藤(30)、柏木(51)

<湘南高校時代までの思い出>

私は、横浜市磯子区根岸に生まれ育ちました。近くには海も山もあり、自然豊かな環境の中でガキ大将として思いっきり遊び回りました。小学校の終わり頃、茅ヶ崎市に引っ越し、松林中学校に入学しました。受験勉強に没頭するタイプではなく、根岸の時と同様、自然の豊かな茅ヶ崎で、活発に遊び回っていました。中学校では、科学部、放送部、歴史研究部など、クラブ活動を掛け持ちし、動ける限り動いていました。当時、日本初のプラネタリウムが渋谷にできた頃で、中学校に同じものを作ろうということになって、資金を集めるため、廃品回収を一生懸命やりました。私は歴史も好きで、歴史研究部では山にあった貝塚を掘り返していました。

昭和 33 (1958) 年、湘南高校に入学しました。当時の湘南には、スピリッツ、スタディ、スポーツの頭文字 S を三つあわせた 3 S 主義がありました。勉強もスポーツもやり、はつらつとした青春を送るという意味で、私は文字どおり、3 S で高校時代を過ごしました。

湘南には名物先生が何人かおられて、授業がおもしろく、授業を真剣に聞くと、自分は勉強をしているんだなという雰囲気になりました。国語は村田先生、歴史は小山先生、理科は関根先生・市瀬先生、英語は宮代先生・高田先生などを思い出します。

村田先生についてはこんな思い出があります。先生は、国文学者で歌人の佐佐木信綱の弟子であり、先程の湘南の 3 S の精神を鼓吹するバイタリティあふれる先生でした。性根をたたき直すんだと言って生徒に雷を落とすこともあったけれど、あらゆる場面で生徒といっしょになって活動した先生でした。3 年時、私は受験を間近にして他の生徒が受験勉強を始めていく中、文化祭実行委員として、その準備に没頭していた訳です。先生はそんな

私の姿に内心はらはらしていたようでした。文化祭が終わった時、先生が「火を消して静かに思う時至る一人一人が自らのため」という短歌を私にくださいまして、非常に感激した思い出があります。また、歴史の小山先生の授業は、私が歴史が大好きであったことでもあります。先生の授業を聞いていると、大変すばらしいものでした。先生の授業を聞いていると、大学受験なんて難なくという感じで、不思議と自信を与えてくれる名講義でした。

ところで、後の自分の専門となる理科の教科についてですが、高校時代はそんなに得意ではありませんでした。特に化学ですが、授業では化学反応式が出てくるだけで終わってしまったので、授業への興味があまりわかず、試験の点数も決してよくはありませんでした。しかし、私は化学部に所属し、めっちゃめっちゃというか、でたらめというか、実験で爆発させたりして、いろいろなことをしていました。また、先輩からは化学のいろいろな知識を教わりました。こういう状況になってくると、自ら勉強したいという姿勢ができたのか、自然に授業もわからないではないという雰囲気にはなりました。結局、化学は高校時代、大好きな科目ではなかったことになりすが、今考えれば、将来に繋がることで、得意中の得意となる化学が、意外にも、マイナスのスタートということになりました。

高校生活の重要な部分として友人をつくるのが挙げられます。私も、のちの自分に大きな影響を与えてくれることになった一人の親友西武君の存在がありました。彼とは、勉強だけでなく、運動や趣味に至るまでいっしょに行動をともしました。彼は、読書を中心として、大学の教養課程で学ぶような考え方を身に付けており、私は、いろいろなことを考える力を彼から学びました。彼は健康面についても意識しており、二人で体力づくりだと言って、山や海辺を歩き回りました。逗子の海岸で季節はずれにもかかわらず、泳いだこともありました。家での勉強も、冬、窓を開けてやったこともありました。とにかく四六時中、二人はいろいろなことで接していました。その彼が紹介してくれたのが、アフリカ医療に身を捧げたシュヴァイツァーの行動を支えた「生命(生)への畏敬」という考え方でした。シュヴァイツァーのすばらしい人生の送り方に感動するとともに、この考え方は、後の私の研究にも大きな影響を与えてくれました。湘南では、他にもいい友人がたくさんできました。

<水口先生との出会い>

卒業後、私は横浜国立大学工学部電気化学科へ進学しました。応用化学科は純然たる化学でおもしろくないということで選んだ訳です。電気化学工業は、私の入学時には、日本が世界に誇った技術の隆盛が終わろうとしている時期で、将来性がなく、これからどうなるのかという時期でした。こんな時、少年時代、理科の解剖でカエルの足が刺激によってぴくっと動く実験を思い出したんです。これは、200年前、イタリアの生理学者ガルバーニが、金属でカエルの足にふれると、筋肉がけいれんすることに気がつき、カエル自身が生物電気を持っている

るといふ説を唱えたことなんです、イタリアの物理学者ボルタとの論争になりました。それぞれが「生物電気の発見」「電池の発明」につながったのです。ガルバーニが生物に電氣的現象があると考えたように、私も生物と電気との関係に非常に興味関心を持ち始めました。合わせて高校時代、「生命(生)への畏敬」を知ったため、生命現象を電気化学の立場で見えていくとどうなるのだろうかという疑問を深めてみようという気持ちになりました。

ちょうどこのような時に、東京工業大学から横浜国立大学に非常勤講師で来られていた水口純先生との出会いがありました。水口先生は、生物の持つすばらしい原理を工学的に応用しようとするバイオテクノロジー(生物工学)の研究をしており、講義のすばらしさもあって、私は先生を慕って大学院は東京工業大学に進みました。

水口先生は、こういう言葉を教えてくれました。「フォロアー(追従者)になるな」と。当時の日本の技術発想には、銅鉄主義というのがあって、新しい発見の発想を銅ではどうか、鉄ではどうかと、新たな原理を打ち出すのではなく、単純にひねって考える姿勢がありました。独創的、創造的な発想が必要だと先生は言っておられたのです。だから、私は先生からレポートが出されても、図書館へ行って書籍を調べたりする文献調査はあまりしませんでした。本当のところは、図書館なんかに行かないで、もっと遊びたいという気持ちもあったのですが、本に頼らず、自分で考える姿勢を身に付けました。横浜国立大学の時のことですが、レポート提出にあたって、稚拙な内容かもしれませんが、本なしに自分で考えましたという解答を出したところ、先生から「満腔の敬意を表する」という採点をもらいました。このことも自分に対する自信となり、化学が好きだ、嫌いだと言っていた自分から一歩進んで、大学院からは、自分の進むべき研究はこっちの方向なのだとわかって、未踏の研究分野であっても、楽しく勉強し、アイデアを考えていきました。大学院では、水口先生は、学生の論文もすばらしいものなら評価してくれていて、普通なら学生の名前など絶対に出ないのに、ある学会誌の総説に「水口純・相澤益男」と書いてくださいました。

また、大学院時代、こんなこともありました。私は、先程話したガルバーニの電気現象からヒントを得て、生物のタンパク質や皮膚の構造のところ、ある方向に電気の+・-の極性がかたよって、見かけ上電気がたまって見える現象が起こるといふ仮説を考えたのです。ところが、アメリカの研究者が同じことを研究し、最近、論文として発表したことを水口先生が大騒ぎして教えてくれたのです。先生は、「おまえは10年生まれるのがおそかった。」と残念がっていました。私自身もショックは受けましたが、この程度の考えで世界のトップを確立できるなら、これから先、いろいろすごいことが出せるチャンスがあるのではないかと前向きに考えていきました。飽くことのない研究心が湧いてきました。

<東京工業大学での研究、大学経営>

私を評価して下さった水口先生は、ドクターコースの最後の時に急逝されてしまいました。当時、研究室は、教授が水口先生、助教授が鈴木周一先生という体制であったので、私は、先生の亡き後もしっかり研究室を守っていこうと思い、鈴木先生の下で助手として大学に残ることを決意しました。生物工学という分野ではありませんでしたが、生物のすばらしさを大学時代に勉強した電気化学の立場で見えていくと、不思議に体系的に理解できるようになってきて、バイオエレクトロニクス(生物電気化学)という分野を一つ作り上げていこうという気持ちになっていました。細胞の中のエネルギーを作り出すメカニズムを研究し、さらに生物電池の研究を進めていきました。1960年代後半、アメリカでも人工衛星の電源用としてこの研究が行われていましたが、私は、アメリカの考えとは似ているような、似ていないような違う原理で考えていました。また、血液の血糖値を測るバイオセンサーの原理の研究にも進み、電子情報と生命体の持つ生命情報の融合したバイオエレクトロニクスの先駆けとなりました。

私は、今から15年くらい前、21世紀をにらんで大学はどんな分野の人材を養成すべきかを考え、理工系の東京工業大学に、バイオ関係を研究する生命工学分野の新しい学部を創設することを大学側に提言していきました。学部新設は大変なことでありましたが、日本で初めての生命理工学部を誕生させました。その後、生命理工学部学部長、東京工業大学副学長、東京工業大学学長と大学経営にも参画していくことになりました。ここも自分の研究同様、まさしく創造性を発揮する場所なのです。東京工業大学をどういう方向に持っていくかだけでなく、将来の日本のあるべき姿を考え、大学経営をしていかなければなりません。これからの新しい時代に求められる人間像は、グローバル化していく国際社会でリーダーシップを発揮できる人間であること、そのためには、秀才タイプの理解型人間ではなく、新たなものをつくり出すとする、個性豊かな、創造型人間でなければなりません。

大変ありがとうございました。私たち同窓は、先生のご活躍を今後も祈念しております。

<2005年11月12日 東京工業大学学長室にて>

(文責 柏木)

## 2006年湘友会アレコレ

### 80周年記念誌・記念品(絵はがき)販売中

母校創立80周年を記念して発行された「記念誌」と「絵はがき」(教員・先輩寄贈の校内展示絵画8枚組)を残部がある限りでお譲りいたします。

価格は「記念誌」1800円、「絵はがきセット」700円、共に送料込みの値段です。購入希望者は、郵便局備付けの払込取扱票に氏名、卒業年次、住所、品目数を記入して下記口座に送金下さい。入金確認後直ちに発送します。  
00260-7-13577 湘友会

絵はがきに収められている絵画は次の8葉です。

- 「烏森」塚本 茂(元美術教諭)
- 「パンジーのある静物」山下大五郎(1回)
- 「ピンのある静物」三浦次郎(1回)
- 「アネモネ」鈴木 清(1回)
- 「6月の港」石川滋彦(2回)
- 「辻堂風景(落日)」甘糟三郎(18回)
- 「城ヶ島」小泉元生(20回)
- 「パレットの見える丘」澤 昌男(22回 元美術教諭)

### 湘友会報バックナンバーご提供のお願い

湘友会では85周年行事として、90・100周年に向けての資料の充実を図っています。その一環として、「湘友会報」バックナンバーの整理をしておりますが、校舎移転等により1~35号が欠落しています。お持ちの方は、ご提供いただきたくお願いいたします。

内容確認後、原本は必ずご返却します。  
ご連絡は、湘友会事務所まで。

### 会報編集部から寄稿に関するお願い

毎年2月末までに届いた同期会、クラブOB・OG会、各種湘友会などの記事は、会報に掲載できます。連絡先明記の上、A4版用紙に記事(横書き、300字程度)や写真(1枚)などをまとめて事務所に直接お送り下さい。もちろん事務所宛に、フロッピーディスク直送(windows版)や、文書ファイルまたはテキストファイルを添付してメールを送信していただいても結構です。ただし、2月末の締切期限は厳守して下さい。

「同期学年全体にわたる集い」「同窓会全体に呼びかける集い」「クラブ毎のOB・OG全体の催し」について会報に掲載する旨の基準を設けさせていただいております。判断不明のときは、事務所にお問い合わせ下さい。ご協力よろしくお願いたします。

### 湘友会会員数2006

2006年3月の新入会員は、全日制313名、定時制87名、通信制268名(一般生11名、少年工科学校257名)で、合計668名でした。2006年現在の会員数は、判明している物故者を除いて46,000名を越えています。

### 湘南高校新入生2006

全日制	男子	188名	女子	128名	計	316名
定時制		87		73		160
通信制		54		77		131
少年工科学校		260		-		260

### ご意見募集中!

~若い世代の湘友会活動参加のために~

湘友会には現在18才~100才近くの方まで、幅広い年代の会員の方々がおられますが、若い世代の方々には、湘友会活動になかなかご参加いただけないのが実情です。しかしながら昨秋からホームページも充実し、今までとは違った形での湘友会への関わりも考えられるようになりました。

今後、10代、20代、30代の方々にも積極的に活動に参加していただくためには、湘友会はどのように動いていけば良いのでしょうか。若い方々は、湘友会に何を望んでおられるのでしょうか。そのためにはどういう取り組みが必要なのでしょうか。皆様の忌憚のないご意見をお聞かせください。湘友会事務所までメールFax、手紙、はがき(宛先は表紙右上に表記)にてのご連絡をお待ちしております。

いただきましたご意見・ご要望は、検討の上、これからの湘友会活動に生かしてまいります。

### 後記

「湘友会報(web版)」は、ホームページで見ることができます。

会員の住所変更については、湘友会ホームページ、E-mail、はがき、またはFaxで、湘友会事務所宛にお知らせ下さい。特に物故者については、連絡者を明記して下さい。

会報に関するご意見は、事務所までご一報ください。

来年2007年の総会運営は、卒業年次末尾7の方々を中心になります。全日制37・47・57・67回生の皆さん、定時制・通信制の7・17・27・37回生の皆さん、出番です!よろしくお願いたします。

### 第48号の編集スタッフ

(略)